

たびに
でて



「あいさつ じま」の さるたちは、
いつも みんな げんきに おおきな
こえで あいさつを します。

でも、けいたは……。

いちいち あいさつを
するなんて めんどうだ。
そうだ。
たびに でしょう。



けいたが やって きたのは、
あいさつの ない しま でした。
「とつても しずかな しまだなあ。」
けいたは、この しまが すっかり
きに いりました。

あるひ けいたは、みずのみばが
しりたくて しまの さるに はなし
かけました。

でも、すれちがう さるたちは、
みんな だまって いて しまいます。
やっと はなしかけると さるは
みずのみばを ゆびさして
「あっち。」
とだけ いいました。



そのよる、けいたは、きの うえで
「あいさつじま」のことを おもいだし
じつと かんがえました。

つぎの ひ。けいたは、であった
さるに おもいきって あいさつを
してみました。

「おはよう。」
すると ちいさな こえで へんじが
かえってきました。

つぎの ひ。けいたは、もっと げんきな
こえで あいさつを しました。





つぎの ひもー。

はじめは、びっくり していた
さるたちも、あいさつを するように
なりました。

「おはよう。」

「おはよう。」

「あいさつの ない しま」に げんきな
あいさつが あふれ だします。

けいたも あかるく おおきな こえで
あいさつを かえしました。

おひさまが にこにこ あたたかい
ひかりを おくって いました。